１．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1454	享徳3	8.28　安東政季、武田(蠣崎)信広らを従え、南部大畑より蝦夷島に渡海	
1593	文録2	1.6　蠣崎慶広、秀吉より国政の朱印状を受け、蝦夷島の支配者として公認される	
1596-1615	慶長年間		（留萌）ルルモッペ場所が商い場として開かれたのでないかと、と推定される▼
1599	慶長4	11.7　蠣崎慶広、大坂城にて徳川家康に拝謁。この時、氏を蠣崎より松前に改める	
1604	慶長9	1.27　松前慶広、家康の国政の黒印状を頂戴する	
1624-43	寛永年間		この年、松前藩がアイヌとの交易所を開設★
1640	寛永17		この年 （広尾）戸梶(トカチ)から亀田にかけ津波が来襲して破船、死者多数、東蝦夷地における津波災害の初見である※6
1643	寛永20		この年 （釧路）松前旧事記にはじめて「クスリ」の地名があらわる☆
1685	貞亨2		この年 （稚内）宗谷場所が開設される★ （紋別）松前藩宗谷場所が開設される(紋別漁場は宗谷場所に属す)※4
1700	元禄13		この年 （広尾）元禄御国絵図にトマリ初見※6
1704	宝永元	5.－　両浜組、彦根藩主の紹介により、松前藩から松前物産の内地移出を一手に担当する允許を得る	
1713	正徳3		この年 （広尾）「和漢三才絵図」の「蝦夷図」にトマリ（現在の十勝港）の地名が掲載される※6
1754	宝暦4		この年 （根室）珸瑤瑁海峡の航路を開き、根室のノツカマップに運上屋を開く○
1781-89	天明年間	この頃、和人地のニシン漁凶漁続きとなる。追ニシン漁がイシカリ辺りまで許可される	（留萌）ルルモッペ場所とマシケ場所の境界移動で争い起きる▼
1783	天明3		この年 （広尾）十勝場所を松前藩が支配★
1785	天明5	3.－　幕府の蝦夷地調査隊、福山到着、２隊に分かれて東西蝦夷地を調査する	この年 （網走）幕府普請役5人を派遣し、初めて東西エゾ地を調査※1
1786	天明6		この年 （釧路）釧路で昆布採取がはじまる▲ （留萌）留萌に厳島神社が創立。留萌駅逓を通行屋と称して設立▼
1790	寛政2		この年 （根室）現在の根室市街地付近に運上屋が置かれる○ （紋別）宗谷場所を3分割し樺太、斜里場所が独立し、紋別番屋が開設される★
1792	寛政4		10.20（根室）ロシア最初の遣日使節アダム・ラクスマン一行が交易を求めて根室に入港する★○
1798	寛政10		7.27　（根室）近藤重蔵、最上徳内らと択捉島に渡り「大日本恵登呂府」の標柱を建てる◆ この年 （網走）幕府勘定吟味役三橋成方、西エゾ地を巡察して宗谷に至り、さらに属僚を派遣し斜里までの北見沿岸を調査する（随行の著「蝦夷日記」や沿岸写生図により場所内の部落戸数がはじめて明らかに）※1
1799	寛政11	1.16　幕府、異国境取締のため東蝦夷を仮上知する旨を松前藩に通達	この年 （釧路）幕府の直接経営となり釧路川口にクスリ(釧路)会所・旅宿所・酒造所が設けられる★。幕府の蝦夷地御用船「政徳丸」が品川沖を出帆、クスリに上陸後アッケシに入港する(江戸～厚岸間の直航路を選定)※7 （広尾）東蝦夷地が幕府の仮直轄地となり、ビロウ場所をトカチ場所と改称※6
1800	寛政12	この年、伊能忠敬、東蝦夷地を測量してニシベツに到り、ネモロ・ノツケ・クナシリ島を遠測し引き返す	4.－　八王子千人頭原半左衛門並びに弟の新助が同心子弟らを召連れ、シラヌカ・ユウフツ両所に入地 5.－　近藤重蔵ら、高田屋喜兵衛と1500石積辰悦丸に乗り込み、エトロフ島に渡海 この年 （広尾）幕府が様似に船蓼場(ふなたてば:造船所)を設ける※5、伊能忠敬が蝦夷地の海岸線を実測、広尾に数日滞在する※5
1801	享保元		この年 （紋別）礒谷則吉が紋別湾を調査「蝦夷道中記」で発表する※4
1802	享保2		この年 （釧路）幕府、クスリ場所にシラヌカ場所を統合する※6
1806	文化3		この年 （根室）高田屋嘉兵衛が金刀比羅神社を建立する○
1807	文化4	3.22　幕府、松前・西蝦夷地一円の上知を決定	3.22　（網走）幕府、西蝦夷地をも収め、全島直轄領とする＊ この年 （留萌）ルルモッペ場所を含む西蝦夷地が幕府の直轄となる。幕府小人目付田草川伝次郎と、小普請方近藤重蔵がルルモッペ場所の沿岸を巡行する▼ （紋別）蝦夷地全島幕府の直轄となる※3

１．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1808	文化5		この年 （釧路）釧路場所の出産高3,964石余を記録▲
1816	文化13		この年 （根室）根室場所が高田屋嘉兵衛ら４名の共同請負となる○
1821	文政4	12.7　幕府、松前・蝦夷地一円の松前家還与を決定	この年 （留萌）ルルモッペ場所を含む西蝦夷地が再び松前藩の支配となる。松前藩士松田伝十郎がルルモッペ場所の沿岸を巡視する▼ （紋別）蝦夷地松前藩に復領※3
1833	天保4		4.－　（根室）ユルリ島の漁獲権を巡ってアッケシ場所とネモロ場所の間に紛争が起きる◆
1845	弘化2		3.2　（根室）松浦武四郎が探検のため、はじめて東蝦夷地に入る◆ この年 （釧路）松浦武四郎がはじめて東蝦夷地を旅し釧路にも立ち寄り知床へ至る▲
1846	弘化3		この年 （留萌）松浦武四郎、ルルモッペ場所の沿岸を巡察する▼ （網走）松浦武四郎、樺太探検の帰途、宗谷より知床岬の間を往復する※1 （紋別）松浦武四郎が紋別湾を調査「再航蝦夷日誌」で天然の船懸り紋別湾を紹介する※4
1854	嘉永7 安政元	3.3　横浜応接所にて日米和親条約12箇条を締結調印	2.25　（函館）アメリカ応接掛林等は、ペリーの要求を受けて箱館港で食料・薪水の供給を行うことを通告◇ 4.15　（函館）ペリーの艦隊、箱館へ来航 6.26　（函館）幕府、松前藩より箱館及び同所周辺5、6里四方を上知 この年 （根室）藤野嘉兵衛が花咲など４カ所に昆布場を再開し、本格的な採取に当る○
1855	安政2	2.22　幕府、松前藩に東部木古内村以北・西部乙部村の地を上知させ、箱館奉行の管轄とする	2.－　（留萌）ルルモッペ場所を含む西蝦夷地が再び幕府の直轄となる(同年3月には秋田藩の警衛地となり、安政6年には庄内藩の領地となる)▼ この年 （函館・釧路）箱館(函館)が前年に開港場となり、幕府は再び釧路を直接経営する(本州から漁場へ働きにくる人が増加)★ （紋別）西蝦夷地神威岬からオホーツク海岸知床岬までと樺太は、秋田藩の警備持場となる※3 （広尾）東蝦夷地が仙台藩の警衛地となる※6
1856	安政3		この年、 （釧路）クスリ場所オソツナイで幕府が石炭を掘るが、まもなく中止する※6 （留萌）松浦武四郎、ルルモッペ場所の沿岸を調査する▼ （広尾）トカチ場所受持ちの海岸を深浅調査する※6
1857	安政4		この年 （釧路）場所請負人の米屋孫右衛門が移民5戸を釧路に入れ、これが和人永住者の始まりとなる☆シラヌカのシリエトで石炭を採掘する※7
1858	安政5		この年 （網走）松浦武四郎、白糠より阿寒を経て網走山道を踏破する※1
1859	安政6	5.28　幕府は布告して6月2日以降商人が神奈川・長崎・箱館の3港で露・仏・英・蘭・米の5か国と自由に貿易することを許可する◇	6.2　（函館）箱館奉行は触書で諸外国との修好通商条約により箱館港を貿易港とし、同5日より外国人との交易を許す旨を通達する。アメリカ商船モーレー号が貿易船として最初に箱館に入港する◇ この年 （根室）根室および国後・択捉(沙那を除く)を仙台藩の領地に給与し守衛開墾を命ずる○ （紋別）蝦夷地を奥羽6大藩に分割し、紋別は会津藩領となる※3 （広尾）仙台藩がトカチを領有し、広尾に陣屋を設ける※6
1863	文久3		この年 （釧路）米屋が大謀網を開発し、漁業を大いに高める▲
1864	元治元	6.15　五稜郭完成、箱館奉行所ここに移る	6.15　（函館）五稜郭完成、箱館奉行所ここに移る
1865-68	慶応年間		（留萌）ルルモッペとトママイは大漁場へと発展していく▼
1866	慶応2		この年 （留萌）ルルモッペ場所が箱館奉行の直轄となる★
1868	明治元	4.12　箱館裁判所設置	4.12　（函館）箱館裁判所設置 この年 （留萌）庄内藩が政変のため移住者を全員引き揚げる▼

１．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1869	明治2	5.18　五稜郭の旧幕府軍降伏し、箱館戦争終わる 7.8　開拓使設置 8.15　蝦夷地を北海道と改称し、11国86郡を置く	5.18 （函館）五稜郭の旧幕府軍降伏し、箱館戦争終わる 8,15 （釧路）クスリから釧路と改称され、釧路国釧路郡となる▲ 8.－ （留萌）ルルモッペを留萌と改称▼ 9.－ （留萌）留萌地方は山口藩の支配となる▼ 9.－ （網走）新政府、北見国を分領(網走・斜里郡を名古屋藩に賜う)＊ 10.2 （根室）松本十郎判官が移住民130名を率いて来住し、開拓使根室出張所を置く○ この年 （根室）根室～函館の海路が開かれる○ （紋別）北見国紋別郡が誕生し、和歌山藩支配地となる★ （広尾）開拓使の手で十勝～函館を結ぶ海路を開く。十勝国を創設、7郡51村となる※6
1870	明治3		6.－ （網走）網走・斜里郡が名古屋藩から開拓使直轄となる※1 6.－ （紋別）紋別郡を和歌山藩から開拓使直轄となる※1 この年 （根室）柳田藤吉が自費で92名を移住させ、漁業に従事させる○
1871	明治4		3.25 （根室）軍艦「春日」英船「セリフィア」沿岸測量のため来航◆ 7.15 （網走）松本十郎判官が北見国を巡察＊ 12.－ （留萌）栖原家が漁業経営を始める★(開拓使から漁場持を命ぜられる▼) この年 （網走）藤野伊兵衛が網走川にはじめて架橋＊ （紋別）判官松本十郎が「北見州経験誌」で紋別港築設の論旨を発表する※4
1872	明治5		3.－ （網走）開拓使、北見国東部4郡の村名を定める8トヲフツ・ナヨロ・モコト・ニクリバケ・イチャニ・アバシリ・モヨロ・ノトロの8村。のち網走市の開基となる）＊ 6.20 （根室）弁天島灯台が点火○ 7.12 （根室）納沙布岬に灯台が設置○ この年 （留萌）宗谷支庁留萌出張所(現留萌支庁)が設置▽
1873	明治6	6.28　亀田～札幌間の新道完成(札幌本道)◎	2.－ （函館）開拓使は函館～青森および函館～大渡(現大湊)間の定期航路を開設する◇ 2.－ （留萌）宗谷支庁を留萌に移し、留萌支庁となる▼ 9.－ （釧路・根室・広尾）榎本武揚が日高・十勝・釧路・根室を巡視○ 10,23（釧路）釧路・厚岸港に海関所を設置▲ 12.－ （小樽）小樽港に常灯台を設置● この年、 （室蘭）室蘭海関所設置◎。森～室蘭間に定期航路開設◎ （根室）開拓使附属船2隻を定繋させ、航路の安全を守り、根室～函館、根室～千島間を往復。納沙布岬に灯標、弁天島に灯竿を設置○ （広尾）アメリカ船がルベシベツに水を求め上陸。
1874	明治7		4.－ （稚内）樺太・宗谷間渡船規則設定□ 9.26 （稚内）開拓使御雇B・S・ライマン稚内地方を乗馬で視察□ 10.－ （留萌）開拓使御雇B・S・ライマンが鉱山調査のため来村する▼ 11.－ （函館）三菱商会、東京～函館間定期航路を開設 12.24（根室）根室より浦河を経て苫小牧へ往復する郵便路線が開通◆ この年 （広尾）開拓使御雇B・S・ライマンに十勝海岸を調査させる※6
1875	明治8	3.20　北海道の函館、福山、森、長万部、室蘭、札幌、小樽の７電信局、公衆電報の取り扱いを開始 この年、東京～札幌間に電信開通	5.24 （網走）網走郡内の8村に漢字名をあてる(網走村となる)＊ 6.2 （稚内）札幌本庁測量課、稚内宗谷地方沿岸測量開始□ 6.－ （留萌）大判官松本十郎が留萌地方の状況調査のため来庁する▼ 10.－ （留萌）留萌川河口に村有志で仮橋を架ける（記念橋）▼ 10.－ （網走）藤野伊兵衛が網走川の板橋を架け替える＊ この年 （紋別）モンベツ村から紋別村となる★ （広尾）開拓使は北海道海路の危険から500石積以上の日本型船の建造を禁止し、西洋型船の建造を布達※6

1．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1876	明治9	8.14　札幌農学校の開校式挙行(教頭ウィリアム・S・クラーク)	8.－　（根室）根室支庁、根室港海浜に鮭燻製所を設置○ 9.－　（留萌）留萌郡を礼受村・留萌村・三泊村・鬼鹿村・天登雁村の5村に区轄する▼ 11.－（根室）根室・野付・目梨・標津各郡の漁場を測量◆ 10.10　全道一斉に漁場持が廃止※1 10.－（小樽）手宮海岸に延長38間の埠頭の築造に着手● この年 （函館）三菱商会、横浜、下関、新潟、函館の西廻り航路完成させ、1000トン級の汽船の運航を開始。 （小樽）玄武丸にて毎月一回、東京～小樽間の定期航路を開始● （釧路）佐野孫右衛門、アトサヌプリ(川湯)の硫黄鉱試掘を出願し、許可される※7
1877	明治10		2.19　（根室）根室支庁、新開の漁場・昆布場以外の営業出願を停止○ 6.26　（根室）根室支庁、漁場・昆布場の転貸を禁止○ 6.－　（網走）藤野伊兵衛が自費で網走郡藻琴川に架橋※1 8.11　（根室）北海道諸産物出港税則並各港船改所規則を改正し、根室に船改派出所を設置○ 11.－（小樽）手宮埠頭が落成● この年 （釧路）約130隻の漁船が常時出入りし、次第に漁港としての重要性を加える※7 （広尾）開拓使は海難防止のため、日本型船の検査を実施、超過貨物を没収※6
1878	明治11		4.－　（小樽）函館税関派出所を色内町に設置● 9.－　（根室）三菱会社、補助金を受け函館～根室間の定期航路開設◆ 9.－　（留萌）開拓使留萌測候所が設置(明治13年廃止)▼ この年 （広尾）三菱会社は函館～根室間(広尾・大津寄港)に定期航路を開設※6
1879	明治12		6.－　（函館）開拓使、三菱会社の函館～青森間定期航路開設を許可。付属船による同航路を廃止 7.1　（根室）根室に測候所を設置、観象を開始する◆ この年 （小樽）水利工師「ファンゲント」が小樽港内を測量● （釧路）開拓使が釧路地方の炭脈を調査☆
1880	明治13		6.－　（根室）開拓使、根室に西洋型船製造所を設置◆ 8.－　（函館・小樽）三菱会社、函館～小樽間の定期航海を開く 11.28（小樽）手宮～札幌間の汽車運転式挙行 この年 （釧路）佐野孫右衛門が硫黄搬出のため自費で開削した道路約27里が完成(雪裡～アトサヌプリ間)※7
1881	明治14	10.11 明治天皇、東北・北海道より帰幸の後、直ちに御前会議を開き、開拓使官有物払下げを中止	
1882	明治15	2.8　開拓使を廃止し、函館・札幌・根室の三県をおく 11.12 札幌～幌内間鉄道敷設が終わり、幌内鉄道全線が竣成	2.8　（根室）開拓使を廃止、根室県を置く◆ 4.－　（留萌）留萌川に渡船場を設置▼ 7.26　（函館）共同運輸会社の設立により、東京風帆船会社、北海道運輸会社、越中風帆会社などを合併 11.－（小樽）手宮～幌内間の鉄道が全通● この年 （広尾）依田勉三ら晩成社を設立※6
1883	明治16		2.－　（函館）越前の山田又左、函館に私立山田銀行創設 5.15　（函館）政府、共同運輸会社に森～室蘭間定期航路を命ずる 5.－　（函館）第三十三国立銀行、函館支店を設置 11.－（函館）三菱会社は新潟丸を加えた3隻体制として函館～横浜間の航路を神戸まで延長し、阪神地方への直行便が開設◇ この年 （稚内）軍艦明治丸宗谷灯台用地を選定■
1884	明治17		3.3　（小樽）三井物産、小樽出張店を設置 この年 （函館）共同運輸会社は三菱会社と同じく青函航路に隔日の定期運行を開始する◇ （根室）共同運輸会社、根室～網走間の航海を開始◆ （広尾）広尾の漁船、3間以上130隻※6

1．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1885	明治18	8.4　太政官大書記官金子賢太郎、北海道三県出張のため札幌に到着 10.2　帰京後、三県出張復命書を提出	7.8　（函館）函館器械製造所で建造中のスクーネル形汽船矢越丸が完成し進水式を行う。北海道での汽船製造の始めとなる◇ 8.－　（根室）花咲港に延長45間(81m)、幅員5間(9m)、工費2,900円の波止場を築設◆ 9.25　（稚内）宗谷灯台設置、測候所設置□ 9.29　（函館）郵便汽船三菱と共同運輸両会社合併による日本郵船会社が設立◇ 9.29　（各地）日本郵船会社の航路を指定(函館～横浜間/函館～根室間/函館～小樽間/函館～青森間/森～室蘭間/小樽～伯州境間/小樽～増毛～礼文～利尻～宗谷間/国後～択捉～北見地方間) 10.1　（根室）日本郵船会社、根室に出張所を置く◆ この年 （釧路）三井銀行根室支店が釧路出張所を開設▲ （根室）日本郵船による函館～根室間、根室～網走間に命令航路開通○ （稚内）日本郵船が政府指定航路として小樽～利尻、礼文、稚内の航路を開設◎ （紋別）紋別郡鮭漁業組合が設立★ （広尾）広尾の漁家89戸、兼業14戸を数える※6
1886	明治19	1.26　函館、札幌、根室三県並びに北海道事業管理局を廃し、北海道庁をおき、全道の施政並びに集治監および屯田兵開墾授産の事務を統理させる。司法大輔岩村通俊、道庁長官に就任 この年、北海道庁が英国人技師C・S・メイクに港湾調査を命じ、翌20年に調査報告が完成する▲	6.－　（広尾）昆布製造改良組合を設け、昆布の検査を行い品質の向上を図る※5 この年 （釧路）北海道庁が英国人技師C・S・メイクに港湾調査を命じ、翌20年に調査報告が完成する▲、安田善次郎（安田財閥）、アトサヌプリの硫黄山を譲り受ける※7 （根室）根室外四郡水産組合が設立。根室港に延長50間(90m)、幅8間(14.4m)、工費6,980円の波止場を築設◆ （稚内）稚内港に初めて小蒸気船入港。稚内に移住者激増、街の形態をつくる□ （紋別）紋別魚粕製造組合が設立★
1887	明治20	6.－　上川郡仮道路改良工事(本道路築造工事)、空知太より起工。'89年11月空知太～忠別太間竣工。'89年4月起工の岩見沢～空知太間は'90年12月竣工(樺戸監獄・空知監獄の囚徒が出役)	1.－　（留萌）留萌漁業組合が設立▼ 8.－　（留萌）英国人技師C・S・メイクが留萌港を調査する▼ 6.22　（函館）英国人技師C・S・メイクが技師福士成豊と共に来函し、町会所に投宿する。函館へ上陸後直ちに出張所へ赴き亀田川の切り替え工事現場を視察◇ 7.－　（全道）英国人技師C・S・メイク、全道の港湾調査を開始(翌年12月終了) この年 （函館）道庁、亀田川の切替工事を実施。 （釧路）釧路川の航路が開かれ、標茶～釧路間の連絡確保のため蒸気船が就航。安田善次郎、硫黄製錬の燃料補給のため春採炭山の開発に着手、アトサヌプリ～標茶間に硫黄輸送のため鉄道を敷設、また、釧路川に航路を開き、標茶～釧路間の連絡確保のため、蒸気船を就航させる※7 （根室）英国人技師C・S・メイクが根室港を調査する○ （網走）釧路監獄署により釧路～網走間の道路開削に着手＊ （広尾）英国人技師C・S・メイクが港を調査。広尾・当縁・十勝各郡の和人が十勝漁業組合を設立※6
1888	明治21		6.11　（網走）英国人技師C・S・メイクが北見国入りし網走港修築を調査する＊ この年 （釧路）函館の金森汽船が釧路～函館間の航路を開設。釧路・十勝共同汽船会社が設立※7 （稚内）道庁技師三上源蔵、初めて稚内港の水深調査をする□ （紋別）紋別水産組合が設立★ （広尾）広尾漁業組合設立を認可。函館・十勝・釧路の商人と漁業家で釧路十勝共同汽船会社を設立※6
1889	明治22	11.18 政府、北海道炭礦鉄道会社創設を許し、室蘭港～空知太間鉄道および同線路より分岐して夕張炭砿、空知炭鉱に達する2支線の3か年以内敷設と、手宮～幌内間、幌内太～郁春別間鉄道の運輸営業を免許	5.6　（函館）函館商工会、富岡町に設立 5.14　（網走）網走・常呂二郡水産漁業組合が創立＊ 6.－　岩内の有志、岩内汽船会社を設立 6.29　（網走）空知監獄署囚人による忠別太～網走間(北見道路)仮道路の開削起工(8月30日竣工) 7.27　（小樽）小樽有志者、小樽農商工会を設立 7.31　（小樽）小樽港が特別輸出港に指定 7.－　（留萌）定期航路船の樺戸丸、飛竜丸がはじめて留萌港に入港する▼ 9.22　（釧路）釧路の愛北物産会社、約2500円を投じて釧路川に木橋を架設、完成(幣舞橋の前身) この年、 （各地）道庁、全道の漁場調査を一応完了 （釧路）釧路川左岸7,000坪が埋め立てられる※7、釧路～標茶間の道路が開通 （網走）藤野家、汽船芳野丸を購入し、函館・根室・網走間の定期航海を行う＊

1．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1890	明治23	4.－　北見道路の開削、空知監獄署囚人によって忠別太から起工(翌年4月、釧路監獄署網走囚徒外役所囚人により網走から起工。'91年12月竣工。囚人の死者を多数出して、'86年起工以来の中央道路が完通) 6.－　上川道路の改築竣工、岩見沢～旭川間が全通	2.－　（函館）大日本水産会社、道庁の許可を得てタラ沖合漁業に着手 4.－　（函館）函館の有力者・園田実徳らが発起人となり、北海道セメント設立('92年、上磯郡上磯村に工場竣工) 7.1　（函館）日本郵船会社は横浜～函館間の定期航海船4隻を改めて6隻とする◇ 9,1　（釧路）知人岬に釧路埼灯台が設置▲ 10.15（根室）落石岬灯台(二等)落成点灯する○ 11.1　（根室）花咲灯台、落成点灯する○ 11.－（網走）川湯硫黄山～網走間の道路(釧路道路)完成＊ 12.27（釧路）釧路港、新たに特別輸出港となる この年 （釧路）安田善次郎、春採炭山の石炭搬出のため、春採湖沼尻～港頭貯炭場間に馬車鉄道を敷設(安田の馬鉄)。阿寒川第1分水工事が実施※7 （稚内）稚内埋立地事件発生□ （留萌）工学博士廣井勇が留萌港の港湾調査を行う▼ （広尾）北海道庁港湾技師廣井勇が広尾港を調査※6
1891	明治24		1.24　（釧路）釧路港に特別輸出港規則施行の件公布(7月1日施行)、同時に釧路に税関出張所をおく 2.6　（根室）根室港の有志者、町会所に会して北海道議会開設請願の事を議し、委員10人を選挙する○ 4.－　（網走）囚徒外役所による網走～上川間の道路(中央道路)開削着工(同年末に完成)＊ 12.－（留萌）第2回帝国議会に留萌築港を請願する▼
1892	明治25		1.－　（留萌）留萌築港請願事務所を設立、本格的な築港運動が始まる▼ 2.26　（根室）日本郵船「播磨丸」花咲港より初めて千島冬季航海を試み、安全を発表する◆ 6.21　（釧路）安田善次郎ほか5人が出願の釧路鉄道会社が認許され、標茶～跡佐登間の運輸営業を開始 8.1　（室蘭）北海道炭礦鉄道会社、岩見沢～室蘭(輸西)間、営業開始 11.16（函館）北垣北海道庁長官の来港に際し、杉浦嘉七ほか45人の調製にかかわる船渠設置の意見書を提出◇ 11.－（函館）道庁技師廣井勇等による修港船渠新設の調査が再開される◇ この年 （小樽）北垣国道・北海道庁長官が小樽港の修築を急ぐべきと唱える （広尾）幌泉～広尾間の道路が開通※6
1893	明治26	3.25.　北垣北海道庁長官が井上馨内務大臣の命にこたえて「北海道開拓意見書」を提出し、拓殖の急務と計画化を主張する◇	4.1　（函館・小樽・室蘭・根室）日本銀行、札幌・函館・根室・室蘭に出張所、小樽に派出所を開設 10.1　（函館・室蘭）逓信省命令航路中、青森～函館間航路を延長して室蘭に連絡し、青森・室蘭両地より毎日1回互いに発船 12,23（釧路）茂尻矢～阿寒太間に釧路橋が架設▲ この年 （小樽）井上馨内務大臣が来樽し、小樽港修築の急を唱え廣井博士に調査を命じる● （広尾）浦河汽船会社が設立※6
1894	明治27	5.－　内務大臣井上馨が「北海道に関する意見書」で鉄道・港湾の修築を中心とする拓殖の計画化の必要を認める。これは前年に行われた北海道視察旅行の見聞によるものである◇ 8.1　清国に宣戦布告(日清戦争)	2.2　（函館）函館築港審査委員を置き、平田文右衛門ほか9人に委員を委嘱する◇ 5.22　（室蘭）室蘭港、特別輸出港の施行(ただし軍港予定地のため貿易は1903年まで極度の制限を受ける) 8,1　（小樽）小樽港において、露領沿海州、サガレン(サハリン)島および朝鮮貿易に関する日本国民所有船舶の出入りと貨物の積卸しを許可 この年 （小樽）廣井勇技師により小樽港の地形、深浅測量を実施。 （函館）内務省土木技監古市公威が来函し、函館港湾改良についての調査研究にあたる◇ （釧路）前田汽船会社(本社・釧路)が開業し、函館～釧路～霧多布間の定期航路を開設。能登善吉も汽船運航を開始し、日本郵船会社を交えての競争となる
1895	明治28		6.－　（函館）道庁技師廣井勇が函館港改良工事の監督を務める◇ 7.10　（函館・根室）日本銀行、函館出張所を北海道支店、根室出張所を同支店の派出所とする 8.26　（函館）船渠予定地払下予約に関し函館区長に出願する。30日、函館区長より許可が下りる◇ 8.－　（函館）港内浚渫および船渠地埋立のため、30万円の補助を内務、大蔵、陸軍などの各大臣と貴族院・衆議院に対して請願する◇ 8.－　（函館）函館船渠(株)創立につき、40万円の補助を内務・逓信大臣に提出する◇ 9.1　（函館）函館船渠(株)の発起人会が町会所で開かれ、資本金120万円を以って会社創立の決議をする。さらに、創立委員7人を選定し、創立事務所は日本郵政(株)函館支店内に置く◇ 9.28　（小樽）小樽貯蓄銀行設立 10.－（小樽）小樽商業会議所設立● 11.－（函館）佐藤祐知ら設立の亀函馬車鉄道、敷設認可を得る('97年12月12日、亀田～若松間で馬鉄営業を開始) 11.－（根室）陸地測量部、花咲に検潮所を設け、潮汐観測事業を開始 この年、 （小樽）廣井勇により第1期小樽築港計画が立てられる。一大試験工事を実施

1．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1896	明治29	5.14　北海道鉄道敷設法公布 7.－　官有鉄道上川線(空知太～旭川間)工事起工 この年、千島を除いた全道地形測量・製図ともに完了。露国サガレン(サハリン)西海岸の漁場を日本人に開放	1.15　(函館) 園田実徳、函館電灯所を開業、経営 2.27　(函館) 函館船渠(株)の東京発起人会が開かれ、補助金下附請願の方針を改めて資本金120万円の私設会社とする方針を決議する。3月3日、函館発起人会もその方針を承諾する◇ 4.－　(小樽) 廣井勇、小樽港湾調査報文を道庁から発行● 6.5　(小樽) 日本商業銀行、小樽支店を設立(本店神戸) 6.13　(函館) 函館船渠創立総会を東京で開催(11月7日設立免許) 6.15　(網走) 工学博士廣井勇が網走港修築調査に着手。11月に完了し「網走築港調査図」作成＊ 6.25　(函館) 道庁技師廣井勇の設計監督のもと函館港改良工事に着手する(弁天砲台を取り壊し、周囲を区営で4万4,547坪埋め立てる。また、函館船渠の敷地1万5,800坪は会社で内面を埋め立てる) 6.30　(函館) 函館貯蓄銀行設立 10.1　(稚内) 稚内郵便局、船舶通報事務開始□ この年 (広尾) 三陸沖地震による津波で広尾港でも民家、漁船に被害多発。帯広～広尾間の広尾街道が着工※6
1897	明治30	5.29　北海道区制・北海道一級町村制・北海道二級町村制各公布	4.－　(函館・広尾) 道庁補助航路となる函館～十勝(大津)間を開設する◇ 4.－　(小樽) 小樽築港事務所が事務を開始● 5.－　(函館) 函館港改良工事の一環として小舟町の船入場(船入澗)造設工事に着手する(4,280坪造成)◇若松町の埋立工事(2万7,183坪) が着工される。同33年4月に竣工し、同35年停車場用地として北海道鉄道(株)に売却される◇ 5.－　(小樽) 小樽港第1期工事起工(廣井勇設計・監督、1908年6月竣工) 6.－　(稚内・広尾) 官設鉄道の十勝線(旭川～帯広間)・天塩線(旭川～宗谷間)工事に旭川方面より着工 6.－　(留萌) 海軍水路部が留萌沿岸を測量▼ 7.1　(室蘭) 北炭社線輪西～室蘭(新設)間、営業開始 8.5　(函館) 前・内務大臣井上馨が来函する。弁天町の港湾改良工事事務所で築港工事の様子を視察し、室蘭に向かう◇ 9.16　(函館) 新任の北海道庁長官安場保和が来函する。築港工事ほかを視察し青森経由で上京する◇ 10.－　(函館) 若松町水面埋立工事費2万円を競馬会より借り入れる◇ 11.5　(網走) 郡役所を廃し、北海道庁網走支庁など19支庁設置＊ 12.9　(函館) 道庁に函館港調査委員会を設置し、同規則を定める◇ 12.－　(函館) 道庁は函館港調査委員に道庁技師の廣井勇、函館支庁長龍岡信熊のほか民間から平田文右衛門・平出喜三郎・遠藤吉平・相馬理三郎らを任命する(同月第1回目の港湾調査会を開く)◇
1898	明治31	7.16　官有鉄道上川線空知太～旭川間、営業開始 10.22 逓信省および内務省官制改正により、北海道官設鉄道及び私設鉄道の監督を内務大臣から逓信大臣に移管 11.－　有珠郡西紋鼈村に噴火湾汽船設立	3.1　(根室) 根室銀行が設立◆ 6.－　(広尾) 広尾～帯広間の道路開削※5 7.7　(函館) 開港港則が公布され、函館港界(阿野間崎から南方沖合半海哩の所より上磯村有川口の東岸まで引いた一線内)も定められる◇ 9.－　(函館) 函館区が実施する函館港改良工事の一部分にあたる海岸町防砂堤(第1防砂堤)が竣工する(浚渫・防砂堤工事の経費は14万8,117円)◇ 11.－　(函館) 函館港改良工事のうち、埋立地石垣の石材に供するために旧弁天砲台を取り壊す工事が完了する◇ 11.－　(函館・釧路・根室・網走) 日本郵船会社が函館～釧路間、根室～網走～南千島間の命令航路を開設する▲ 12.－　(網走) 貴田国平、単身上京して網走港修築を国会に請願 この年 (釧路) 道庁技師廣井勇工学博士が釧路港を精密調査し、修築計画を樹立。開港港則(勅令第139号)が公布され、釧路港の港域が決定。木造曳船「いろは丸」が建造※7 (広尾) 茂寄(広尾)港入港船舶と貨物(汽船)隻数353隻、貨物量51,013トンとなる※6
1899	明治32	3.22　北海道拓殖銀行法公布 この年、三井合名、北海道炭鉱鉄道の株式を購入して、北海道石炭界に進出	3.－　(釧路) 北海道鉄道部釧路工事区が開設▲ 4.－　(網走) 小樽～網走間に道庁補助定期航路が開設＊ 5.6　(函館) 函館港改良工事のうち防波堤および埋立工事が竣工し、3日間区民の縦覧を許可する◇ 6.14　(函館) 函館船舶司検所を改め函館海事局とする。北海道・青森県・秋田県を管理し事務分掌のため小樽海務署を置く◇ 7.13　(室蘭) 小樽・釧路・室蘭を開港※8、室蘭港においては、麦・石炭・硫黄その他、大蔵大臣指定の物品に限り輸出を許可 7.14　(網走) 廣井勇「網走港湾設計報文(改補)」上申＊ 10.2　(小樽) 十二銀行、小樽支店を開設(本店富山) 10.6　(網走) 網走築港期成会が結成し、築港・鉄道の速成を上京運動＊ 12.28 (網走) 貴田国平「網走港」発刊＊ この年 (小樽) 小樽港が外国貿易港(開港)に指定◎ (釧路) 釧路港が関税法に基づく普通貿易港に指定。阿寒川第2分水工事を施工※6、越後漁民が母漁村より川崎船を直接釧路へ導入して手繰網漁業を行い、漁場が拡大し、漁獲量が増加。 (広尾) 北海道庁が広尾港の実測調査を行う※6

1．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1900	明治33		1.11 （網走）網走築港期成会、廣井勇著「網走港修築意見書」発刊＊ 5.－ （釧路・広尾）官設鉄道釧路線(帯広～釧路間)工事を釧路方面より着工▲ 6.－ （根室）柳田藤吉が単独で本町に海岸埋立工事「柳田埋立地」を竣工(8,020坪、間口100間(180m)、左奥行80間(144m)、右奥行70間(126m))◆ 9.－ （根室）逓信省命令、日本郵船受令の函館・根室線、根室・網走線、根室・沙那線を道庁命令航路として継続する◆ 12.26（根室）千島冬季定期補助航海を開始し、日本郵船「播磨丸」第1回定航につく◆ 7.1 （釧路）釧路に町制が施行▲ 5.－ （釧路）官設鉄道釧路線(根室西線)が釧路より起工▲ 8.－ （広尾）広尾港の修築、日勝鉄道の敷設を政府に請願※5 9.2 （釧路）輸入貨物を積載した外国汽船がはじめて釧路港へ入港▲ 9.30 （函館）函館港改良工事が竣工する(工事費11万4,856円)◇ 9.－ （留萌）留萌築港鉄道期成同盟会発足▼ 10.－ （網走）網走～根室間に道庁命令定期航路が開設＊ 12.10（稚内）稚内灯台設置口 12.－ （留萌）留萌築港と鉄道敷設を再度帝国議会に請願する▼ 12.－ （網走）北海道拓殖10年計画国会で可決(明治34年4月施行、網走・常呂・湧別各河川の治水事業費は計上されたが、築港事業費は削除)＊ この年 （釧路）釧路川左岸35,209坪の埋立工事に着手※6。前田正名ら、釧路に前田製紙設立、初代幣舞橋が国費で架けられる★ （留萌）道庁技師内田富吉が留萌港の港湾調査を行い、築港修築を立案(～明治34年)▼ （紋別）網走～稚内間を結ぶ紋別～渚滑間仮定県道(北海岸線)が完成し、紋別港までの主要道路が貫通する※2
1901	明治34		2.1 （函館）函館船渠、1,000トンまでの船舶曳揚修船台を竣工 5.－ （稚内・網走）道庁補助航路、稚内～網走線が運航開始★ 7.－ （釧路）釧路～白糠間に鉄道が開通▲ 8.－ （函館）北海道機械網、函館に設立 10.－ （網走）小樽～網走間の道庁補助定期航路を稚内～網走間に分割＊ この年 （釧路）釧路港修築計画が明治36年より8ヵ年継続事業として「北海道10年計画」に含まれる※6 （留萌）留萌～妹背牛間の道路が開通▽ （紋別）全道沿岸航路の連絡網が完成し、稚内～網走定期航路が紋別に寄港する(夏季だけの定期入港)※2 （広尾）広尾港補足調査が行われる※6
1902	明治35		2.1 （函館）日本郵船会社函館支店は東浜町桟橋に船客待合所を新築し、供用を開始する。2階には移住民事務取扱所を置く◇ 4.－ （函館）函館港内の停泊船火災防御のため水上消防部を設置◇ 6.－ （留萌）留萌～北竜間の道路が開通▼ この年 （留萌）道庁技師伊藤長市(後の初代留萌築港事務所長・伊藤長右衛門)が留萌港の再調査を行う(～明治36年)▽ （紋別）漁場持の藤野以外の漁業者、水産物製造者が増え(専業73戸475名・兼業39戸213名)、漁船も482隻を数える※2 （広尾）函館の金森汽船合名会社が広尾で海運業務を始める。広尾港補足調査が行われる。 北海道移住民上陸地(明治30年～)小樽・函館・室蘭・釧路・大津・広尾の6港、十勝への移住好調に進む※6
1903	明治36		3.－ （釧路）釧路線、白糠～音別間に鉄道が開通▲ 7.28 （函館）函館船渠、1万トン用のドックを竣工 9.13 （函館）函館開港50年記念会が開かれ、函館公園で式典が行われたほか、花火の打ち上げや手踊り・点火行列などの行事が挙行される◇ この年 （釧路）釧路川左岸の埋立工事が完成し、入船町が新設▲ （広尾）広尾水産組合が設立※6
1904	明治37	2.10 日本、ロシアに宣戦布告(日露戦争)	8.－ （釧路）第二十国立銀行釧路支店が開設▲ 10.15（函館・小樽）小樽～函館間鉄道(159マイル)が全通し、開通式を挙行 この年 （紋別）紋別～名寄間の道路開通★
1905	明治38	3.29 逓信大臣監督下で道庁長官が所管してきた北海道官設鉄道を、逓信大臣の管理下に編入	4.－ （函館）千島漁業家ら、千島汽船を函館に設立 8.1 （小樽）北海道炭礦鉄道および函樽鉄道の高島～小樽間の連絡線が開通 10.21（釧路・広尾）北海道官設鉄道利別～帯広間が営業開始。これにより釧路線の釧路～帯広間が全通▲ この年 （小樽）北海道炭礦鉄道(株)経営の小樽・若竹町埋立工事が完成● （釧路）釧路港より上海へ、初めて枕木が直輸出される▲ （広尾）釧路線(釧路～帯広)が開通※6

１．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1906	明治39	3.31　鉄道国有法公布。北海道炭礦鉄道線および北海道鉄道線が共に買収鉄道に指定される 10.1　鉄道国有法により北炭所属の全線204マイル71鎖、政府が買収 10.1　北海道炭礦鉄道、社名を北海道炭礦汽船に改称	8.20　（小樽）日本銀行小樽出張所、支店に昇格 この年 （釧路）政府の同意を得て、釧路港修築計画が帝国議会に提出されたが、貴族院で否決される。釧路炭礦(株)、阿寒郡舌辛炭山を採掘※7 （稚内）小樽、稚内、樺太定期航路開設★、北海道銀行稚内支店が設置■ （留萌）工学博士廣井勇が帝国議会において留萌築港修築について演説を行う▽
1907	明治40	7.1　北海道鉄道線が鉄道国有法により政府に買収される 7.28　日露通商航海条約並びに日露漁業協約に調印	2.－　（留萌）国有鉄道留萌線(深川～留萌間)工事起工 3.－　（網走）国有鉄道網走線(池田～網走間)工事に池田～本別間より着工 4.13　（室蘭）北炭、輪西製鉄所の建設に着工(砂鉄による製鉄事業) 4.16　（小樽）第四十七銀行(本店富山)、小樽支店開設 4.－　（小樽）鉄道院は小樽・手宮の海面埋立に着手● 4.－　（留萌）留萌漁業組合が設立▼ 5.－　（小樽）小樽区に小樽市場・共同倉庫創立 8.－　（釧路）釧路銀行が開設▲ 9.8　（釧路・広尾）国有鉄道落合～帯広間、営業開始。十勝線が全通し釧路線と接続、旭川～釧路間を釧路線に改称 11.1　（室蘭）北炭及び英国アームストロング社・ビッカー社、折半出資により日本製鋼所設立('11年1月開業) 11.29（室蘭）室蘭港を一般貨物の輸出入港とする この年、 （函館）函館港が第二種重要港湾の指定◎ （小樽）第二種重要港湾に指定◎、藤山汽船部は小樽～樺太間の定期航路を開始● （釧路）道庁の関屋技師による釧路港修築のための再調査開始、鰊漁業開始以来、最高の水揚を記録、釧路で川崎船が建造、日本郵船が釧路～本州間の航路を開設▲ （根室）根室の漁業家西村彦右衛門ら、北千島の調査と試験操業を実施★、道庁命令航路、釧路根室近海線を開始する○ （留萌）道庁技師関谷忠正が留萌港の築港計画修正のため調査を行う(～明治41年)▽ （紋別）紋別外１カ村漁業組合設立★ （広尾）大阪新田帯革草(株)新田長次郎が十勝の柏樹皮(タンニン原料)買受所を設け、広尾海岸から積み出す※6 （ほか）堤清六(日魯漁業創立者)初めてカムチャッカ漁業に従事、岩内港修築工事を町営として着手
1908	明治41		3.6　（小樽）小樽区水道工事着手('14年9月竣工) 3.7　（函館）国有鉄道青函連絡船、営業を開始し比羅夫丸就航(4月4日より同型の田村丸も就航) 5.－　王子製紙、苫小牧工場の建設に着手('09年12月竣工) 6.－　（小樽）小樽港第2期修築工事を起工 6.－　（留萌）町制施行で留萌町となる▼ 7.－　（小樽）廣井勇「小樽築港工事報文前編」を道庁から発行● 7.－　（小樽）小樽港第一防波堤工事(延長四千二百五十尺)が竣工● この年 （小樽）第1期小樽築港工事完成(北防波堤1,289メートル)◎ （釧路）北海道庁の釧路港修築計画案(関屋計画)が完成▲ （根室）定期補助航路が開始され、地方開発が進むにつれ、入港船および取扱量も増大する○
1909	明治42		4.1　（釧路）釧路築港事務所を釧路町役場内に開設、初代所長に小樽築港事務所より、関屋忠正が着任※6 7.15　（稚内）宗谷漁業組合、宗谷水産組合設立■ 11.－　（釧路）知人町に釧路築港事務所庁舎が落成※7 この年 （小樽）小樽で雑穀商同業組合設立 （釧路）釧路港修築予算が第25回帝国議会を通過し、釧路港修築工事に着手。春採湖畔のチャランケチャシに釧路港修築碑を建立(昭和39年米町公園に移設)※7、幣舞橋が改築、古川忠一郎編「釧路築港史」が出版▲ （稚内）道庁技師野口秀一、稚内港精査実測□ （網走）大字網走村大曲～呼人間の湖崖道路開削工事に着手＊

1．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1910	明治43	この年、北海道第1期拓殖計画(明治43年～昭和元年度)	1.－　（根室）根室缶詰株式会社が創業◆ 2.－　（留萌）留萌港築港予算、第26回帝国議会で可決される▼ 3.10　（網走）北海道15年経営案(第1期拓殖計画)議決、網走港288万円で修築決定＊ 4.－　（留萌）留萌築港事務所が開設、留萌港修築工事が着工▼ 5.31　（根室）根室開港場に指定◆ 6.1　（根室）根室港開港し、根室税関支署が開庁。輸出は水産物に限定◆ 9.1　王子製紙苫小牧工場、日本最大規模製紙工場として開業 11.23（留萌）国有鉄道留萌線(深川～留萌間)全通、営業開始 この年 （釧路）釧路港修築のため釧路土木事務所が設置。山部造船所が開設▲ （稚内）北海道水産試験所稚内駐在所設置■、稚内港、道庁港湾費で修築□ （紋別）北海道庁港湾課技手岡田久楠が紋別湾を再調査する※4 （広尾）十勝新聞社が設立※6
1911	明治44	10.－　国有鉄道岩内線(小沢～岩内間)工事、軽便鉄道法に基づき着工	12.－（室蘭）鉄道院により室蘭の石炭高架桟橋が完成 この年 （釧路）阿寒川切替工事の測量が開始※7 （留萌）留萌港南防波堤の築堤に着手▽ （広尾）茂寄村会「広尾港防波堤築設費」4万円を計上する。三井物産(株)広尾に出張所を開設し、枕木を積み出す。十勝産雑穀の作付面積5万町歩に増え、広尾・大津港から積み出す。函館～釧路間に直通列車が開通し、入植者移住が相次ぐ※6
1912	明治45/大正元		3.13　（根室）根室漁業組合が設立◆ 5.16　（網走）網走漁業会設立＊ 9.1　王子製紙苫小牧工場、日本最大規模製紙工場として開業 10.5　（網走）国有鉄道野付牛～網走間、営業開始。これにより網走線(池田～網走間)が全通 10.－（留萌）留萌海陸連絡(株)が創立▼ この年、 （広尾）広尾港築設に地方費1万5,000円の補助が付き、工費6万円で着工※6
1913	大正2	11.10 釧路本線の滝川～下富良野間、営業開始	4.－　（根室）根室船材株式会社創立◆ 5.－　（網走）保原元二「網走港修築補測調査報文」提出(大正3年から事前調査に着手)＊ 6.17　（函館）函館水電、函館市内湯川線電車の運行を開始 7.－　（釧路）北海道拓殖銀行釧路支店が開設▲ 11.16（函館・釧路）函館～釧路間の直通旅客列車を幌倉(東滝川)経由とする この年 （広尾）東海字平海山合資会社が設立、沿岸漁業にはじめて動力船を使用※6
1914	大正3		2.2　（函館）函館桟橋の一部増設工事(車両航送を行うための可動橋と陸上設備)が竣工し、使用を開始する◇ 3.12　（函館）明治44年創立の樺太ニシン漁業の一井組がカムチャッカ漁業に進出し、日魯漁業(株)となる◇ 3.30　（函館）北日本汽船(株)が創立され、4月1日より樺太庁の命令航路(函館～樺太東海岸線、同西海岸線等)を受命する◇ 6.1　（広尾）広尾橋竣工(同月14日の大雨で流失)※5 6.26　（網走）東条貞「網走築港調査書」発刊＊ 7.－　（釧路）釧路～根室間の鉄道工事が着工▲ 8.21　（小樽）小樽区第1期埋立工事を起工('23年12月27日竣工) 9.－　（留萌）増毛支庁を留萌に移し、留萌支庁と改称▼ この年 （根室）根室線鉄道が着工☆、根室に測候所を設置○ （留萌）留萌築港事務所および築港工場が完成 （紋別）紋別港避難港築設の請願、両院で採択される※4 （広尾）尼ヶ崎汽船が広尾港に就航。北海道10カ年計画に基づき広尾港の地形、深浅、潮流の測量が開始※6
1915	大正4	この年、管外移出総額のうち、工業が36.2%を占め、漁業に代わって首位となる	4.1　（室蘭）北日本汽船(株)が日本郵船(株)のあとを受けて室蘭～青森定期航路を逓信省より受命する◇ 5.3　（函館）日本郵船(株)の北千島定期航路第一船和歌浦丸が函館港を出港する。積荷は米・味噌のほか漁業用品・縄・筵・薪であり、漁夫600人が乗船する。根室に寄港して、さらに漁夫と貨物を積む◇ この年 （釧路）札幌鉄道局釧路工場が建設。釧路にはじめて自動車が入る☆釧路発動機漁船組合が設立▲ （網走）網走電気株式会社が創立し、網走に初めて電気が通る、沿岸漁業に動力船が導入＊ （広尾）漁船の遭難が相次ぐ、崖が崩れ、橋や道路に被害※6

１．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1916	大正5		4.25 （根室）北海道水産試験場支場を室蘭・釧路・根室・宗谷に設置◆ 4.－ （留萌）築港計画を変更(工期の１カ年延長と外港の縮小)▼ 10.－ （網走）網走港修築計画更訂、避難港に縮小＊ 11.26（函館）函館船渠会社で新造した最新式鋼鉄貨物船第2吉備丸(1,000トン)が進水式をあげる。同社は東北アジアにおける唯一の船渠を有し、これまでは船舶の修繕を主に扱っていたので大型船建造は新記録となる◇ 12.－ （網走）北見国沿岸一帯、高波のため漁業など被害甚大＊ この年 （釧路）釧路港修築計画が改訂され、北防波堤の築造が追加(被覆面積67万坪)▲ （根室）根室にはじめて貨物自動車が入る○ （網走）第一期拓殖計画により避難港として修築◎
1917	大正6		7.14 （稚内）稚内港の修築、道庁財政の関係で他日に譲る■ 9.－ （広尾）広尾漁業組合設立※5 10.1 （網走）能取岬灯台完成し、初照射＊ 12.－ （釧路）釧路～厚岸間に鉄道が開通▲ この年 （釧路）北海水産株式会社が設立、製造事業のほか沖合漁業を営む▲ （留萌）留萌川切替、新水路掘削に着手▽
1918	大正7		11.25（根室）輸出高100万円達成し祝賀会を 開催(入場者約1,000人)◆ この年 （室蘭）室蘭港第1期修築工事に着工 （釧路）切替阿寒川が通水※7、富士製紙が鳥取村に工場の建設を開始▲
1919	大正8		3.18 （網走）網走港修築予算確定＊ 4.－ （網走）網走築港事務所開設(大正9年、所長平尾俊雄着任)＊ 7.－ （広尾）広尾汽船(株)が設立※5 8.13 （網走）網走港修築工事起工式および祝賀会挙行＊ 11.－ （根室）根室線、厚岸～厚床間が開通▲ この年 （釧路）知人貯炭場が造成。春採湖岸沿いに軌道が敷設され、春採炭山より港頭まで馬車軌道で結ばれる （根室）柳田鉄三が自費で石垣護岸を修復○ （稚内）道庁技師伊藤長右衛門、稚内港を調査設計□ （留萌）留萌港防砂堤本工事が起工▽ （網走）網走港修築工事に着工＊ （紋別）紋別村から紋別町と改称★、紋別築港期成会結成※4
1920	大正9	7.1 北海道区制が施行される▲ この年、釧路川大洪水が発生	2.12 （稚内）稚内築港原案、衆議院において可決∴ 4.－ （留萌）築港計画を変更(工期の4カ年延長と内港の拡張)▼ 7.1 （釧路）北海道区制が施行され釧路区となり、釧路村を分村▲ 7.5 （根室）根室港湾修築期成同盟を設立◆ 8.8 （釧路）釧路十勝地方の豪雨で釧路川、阿寒川が氾濫し、未曾有の洪水となる▲ 10,－ （根室）根室港修築工事に着工◆ この年 （釧路）太平洋炭礦が開業▲、釧路川改修計画に伴い、釧路港の港域が拡大。富士製紙釧路工場で、パルプ、紙の製造を開始▲ （根室）根室港修築工事、稚内港修築工事に着工 （稚内）稚内港修築工事に着工(大型貨客船対応施設の工事に着手◎、国費6,030万円 ∴)埋立に利尻砕石、裏山土石を使用□ （留萌）留萌港北防波堤築設工事を起工▽ （広尾）広尾港に共同船揚場を建設、利用者は漁業組合員350名※6

1．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1921	大正10		3.13 （函館）輸出食品、日魯漁業、勘察加漁業の3社、合併して新社名を日魯漁業とする 6.23 （稚内）稚内築港に内務大臣床次竹二郎刻字基石設置■ 6.－ （釧路）釧路川新水路掘削工事に着工▲ 8.5 （根室）国有鉄道西和田～根室間、営業開始、根室線が全通。これにより函館と根室を結ぶ本道横断路線が完成(根室駅開業◆) 8.6 （根室）根室築港起工式及び祝賀会開催◆ 9.3 浦河築港起工式を挙行 9.23 （稚内）稚内築港起工式祝賀会開催∴ 10.5 （紋別）国有鉄道興部～上興部間が開通、名寄線名寄～中湧別間が全通 10.23（小樽）日魯漁業が出資し、北海道製缶倉庫を小樽に設立 11.5 （留萌）国有鉄道増毛線(開業線名、留萌線)留萌～増毛間が全通 11.－ （紋別）漁港と避難港を兼ねた整備を目指し、漂砂流入と波浪の影響を探る試験用突堤(長さ136m)を築設(後の北防波堤で紋別港湾整備の起点)※2 12.9 （函館）港湾調査会総会が内務大臣官邸で開かれ、函館停車場桟橋移転埋立浚渫および防波堤築設の件が可決される◇ この年 （室蘭）室蘭港北堤修築工事に着工 （釧路）根室線が全通。釧路区東部、西部漁業組合が発足。釧路港湾会が設立。栗林商会が洋紙積取のため、釧路～本州間に航路を開設▲ （稚内）稚内港北堤修築工事に着工 （留萌）留萌港防砂堤、方塊据付が完了し、予定の堤長を築設▽ （広尾）広尾港に角材積取り船が相次ぎ入港。広尾港の測量調査のため北海道庁港湾課長が来村※6 （ほか）江差港、沓形港修築工事に着工
1922	大正11		1.－ （稚内）宗谷海峡一帯結氷、船舶航行不能□ 7.1 （釧路）市制が施行され、釧路市が誕生(人口42,673人)★ 11.1 （稚内）国有鉄道鬼志別～稚内(のちの南稚内)間が開通。これにより宗谷本線(浜頓別経由)が全通し、北海道を鉄道が縦断 この年 （釧路）釧路川改修計画に伴い、釧路港の港域が拡大。灯台霧笛信号が設置され、南防波堤が完成。富士製紙釧路工場でパルプ、紙の製造を開始。釧路市漁業組合、釧路市東部漁業組合が発足▲ （稚内）宗谷線(現天北線)開通∴ （留萌）留萌港導流堤築設に着手。小樽～留萌港へケーソンを海上曳航。留萌港港内浚渫を開始▽ （紋別）道庁港湾課長伊藤長右衛門によって、紋別港整備計画立案※4、ホタテ漁船の大海難事故発生★
1923	大正12	5.30 札幌・函館・小樽の3市、都市計画法施行都市に指定 11.15 国有鉄道ルベシベ線(開業線名、石北線)新旭川～上川間が全通	4.1 （函館）北海道庁の命令航路の函館～森間が北海郵船により開設される(戸井・椴法華・臼尻など10港に寄港)◇ 4.1 （函館）日本郵船(株)近海部が独立して近海郵船(株)が設立される。日本郵船の函館支店事務所その他一切の施設を近海郵船が継承する◇ 5.1 （稚内）国有鉄道稚泊連絡船(稚内～大泊間)が運行開始、壱岐丸、対馬丸就航□ 8.5 （函館）青函連絡船岸壁工事の基礎となるケーソン(函塊)の進水式が若松町鉄道埋立地船入澗脇で行われる◇ 8.5 （稚内）軍艦春日、稚内港に入港□ 11.1 （根室）根室銀行が安田銀行に合併○ 12.－ （釧路）釧路臨港鉄道株式会社が設立 この年 （小樽）小樽区第1期埋立工事(小樽運河)竣工 （留萌）留萌川切替全工程が完了し、通水する。留萌港内港築設工事で掘削および浚渫を開始。小樽～留萌港へケーソンを海上曳航。町営事業の副港造設、留萌川切替工事が完了▽ （紋別）紋別港修築工事(5カ年継続事業)に着工★、南防波堤と船入澗、北防波堤の建設、浚渫、埋築に着工(昭和5年完成)※2 （広尾）北海道庁長官、広尾港を視察し、広尾港外で座礁の川崎汽船「鹿山丸」を眺望※6

1．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1924	大正13	9.26　北海道大学に工学部を設置	3.－　（小樽）伊藤長右衛門「小樽築港工事報文後編」を道庁から発行● 3.－　（釧路）幣舞橋の鉄橋架換工事が着工▲ 10.1　（函館）青函航路の函館埠頭岸壁および待合所工事がほぼ完成し使用を開始する。最初の連絡船収容列車は午前7時半函館発の祥鳳丸に積み込まれる予定であったが、港内大時化のため、新岸壁最初の使用は正午着の比羅夫丸からとなる◇ 11.15（網走）釧網線の網走～北浜間が開通＊ この年 （室蘭）道庁技師林千秋「勇払築港論」を発表 （根室）根室鮭鱒養殖水産組合が設置◆ （稚内）北日本汽船会社稚内出張所設置、稚斗連絡航路開始(稚内～本斗間)口、北海道拓殖銀行稚内支店設置、北海道水産会宗谷支部設置■、北見線(現宗谷線)開通∴ （紋別）紋別港北防波堤護岸工事に着工※4、タラバガニ缶詰工場が創設。沖合漁業が盛んとなり、カマボコ、チクワ類の製造が行なわれる★ （広尾）広尾港修築建議案を衆議院に提案し採択される※5
1925	大正14		2.－　（釧路）釧路臨港鉄道第一期工事(東釧路～春採～知人間)が竣工▲ 5.31　（函館）大正11年着工の国鉄青函連絡船函館桟橋岸壁工事が完成し、来賓400人を迎え函館埠頭岸壁において貨車航送連絡設備落成式が挙行される◇ 8.1　（函館）これまで艀による荷物の積み替えが行われていた青函航路で4船の貨車航送(船内のレールと陸上のレールを継ぎ合わせて貨車をそのまま積んで運ぶ)）を開始する◇ 8.1　（函館）青函航路、貨物輸送を開始 11.10（網走）釧網線の網走～斜里間開通＊ この年 （釧路）釧路臨港鉄道が石炭輸送を開始 （根室）根室港修築第1期工事が竣工○ （稚内）摂政宮裕仁親王殿下が稚内に御寄港■ （広尾）前大蔵大臣一行が広尾港を視察。広尾線の実測調査開始※6
1926	大正15/昭和元	4.1　川崎汽船が逓信省命令航路のウラジオストク回航船(小樽～ウラジオストク、函館寄港)を受命する◇ 4.25　青森～函館間、電話開通 5.1　青森～札幌間、電話開通 9.6　東京～札幌間、通話開始	1.－　（釧路）釧路臨港鉄道第二期工事(知人～臨港～入船町間)が竣工▲ 2.13　（根室）根室汽船(株)創立◆ 2.18　（函館）港湾調査会(会長小熊幸一郎)の総会が開催され、西浜町の埋立計画案が満場一致で可決される◇ 3.6　（網走）網走信用組合設立＊ 3.17　（函館・根室）日本郵船が上海航路(根室～函館～上海)を開設、根室から入港した第1船竹島丸(2,700トン)函館から上海に向けて出港する◇ 6.1　（広尾）村名を茂寄村から広尾村に改称※5 6.23　（函館）川崎汽船が函館～北樺太間の郵便航路(オハ、ニコラエフスク等に寄港)を開き、喜福丸が第1船として北樺太石油会社関係者を乗せてオハに向け出港する◇ この年 （釧路）釧路港第一期修築工事完了▲、川崎汽船の北海道～上海～台湾航路が開設され、釧路港も寄港地となる※7 （根室）柳田埋立地護岸工事102mが完成する○ （稚内）築港船入澗(現第三副港)完成、鉄道船入澗(後に埋立中央ふ頭)未完、稚泊連絡船対馬丸ノシャップ沖で沈没∴、第一期拓殖計画(明治43年～昭和元年)終わる。進捗率40%口 （紋別）紋別港北防波護岸が完成※4、政府の動力漁船建造奨励を受け動力船付漁船は44隻となり、沿岸漁業だけでなく遠洋漁業の動力船も36隻を数えた※2 （広尾）北海道庁が音調津(おしらべつ）船入澗の測量を開始※6
1927	昭和2	この年、北海道第2期拓殖計画(昭和2～21年度)	4.1　（函館）北海道第2期拓殖計画が確定し、この計画には昭和5年以降15か件継続となる防波堤の延長や埠頭2基の築造など函館港修築工費1,138万円が盛り込まれる◇ 4.13　（函館）函館市が出願していた西浜町と海岸町の公有水面埋立が認可となる◇ 9.－　（釧路）釧路～標茶間に鉄道が開通▲ 10.－　（根室）第2期北海道拓殖計画が採択され、根室港の泊地浚渫工事を着工◆ 12.－　（網走）網走川に新橋が架橋＊ この年 （釧路）釧路港第二期修築工事に着手(昭和16年に完工)▲ （留萌）留萌～増毛間に鉄道が開通▽ （紋別）紋別港北防波工事に着工※4 （広尾）広尾港の整備が第2期北海道拓殖計画に取り上げられる。日勝連絡道路(黄金道路)33kmを起工※5

1．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1928	昭和3	9.10　国有鉄道静狩～伊達紋別間が開通。長輪線長万部～輪西間が全通。これにより室蘭本線と函館本線が連結	6.1　（函館）函館港修築起工式が行われる(海岸町、西浜町埋立地で基石の沈下式、公会堂で祝賀会)◇ 6.14　（網走）網走川河口部および網走橋下流部右岸の護岸・浚渫・埋立工事を町営で着工(昭和4年完成)＊ 6.－　（釧路）第十二銀行釧路支店が開設(昭和18年に北陸銀行と改称)▲ 8.－　（留萌）留萌鉄道(株)が創立(12月留萌海陸連絡(株)を合併)▼ 10.－　（釧路）4代目幣舞橋(橋長118m、大正14年着工)竣工 11.－　（釧路）根室線釧網線の分岐点として東釧路駅を設置▲ 12.26（稚内）稚内港駅(現稚内駅)開駅∴ この年 （留萌）留萌～鬼鹿間の鉄道が開通▽
1929	昭和4		2.－　（稚内）稚内港第一期計画事業船入澗が竣工□ 4.1　（函館）函館港修築事業着手のため、函館築港事務所が開設され、北海道庁の伊藤港湾課長が事務所長を兼務する◇ 12.11（函館）多年の懸案だった函館～香港航路が神戸の中村組汽船部によって実現され、第1船の第3雲洋上丸が函館港に入港する◇ この年 （小樽）小樽築港の設計者廣井工学博士の胸像を小樽公園に建設● （釧路）釧路漁港(株)(嵯峨漁港)の埋立を認可。マグロ漁が盛んになり、釧路川の「氷きり」も盛んに▲ （根室）根室拓殖軌道(株)により歯舞～根室を結ぶ軌道が開通◯ （稚内）帝国議会で稚内、利礼定期連絡航路開始建議案可決□ （留萌）留萌港南防波堤竣工。内港岸壁工事に着手 （紋別）紋別町開発期成同盟設立★ （広尾）広尾築港事務所が開設し、初代所長今野彦策による南防波堤工事が開始(広尾港修築工事に着手◎)※6 （ほか）余市港修築工事に着手、サロマ湖第一湖口を開削
1930	昭和5	この年、母船式カニ漁業の出漁母船19隻、漁獲高4万5,104トン(約2,400万匹)、罐詰製造高40万5,992函で過去最高を記録。北海道水産試験場、北千島海域のサケ・マス流網漁業の試験を実施。都市人口、全道人口(281万人)のほぼ4分の1を占める	3.－　（網走）網走築港工事竣工＊ この年 （釧路）新川橋が架設。釧路港よりアメリカ合衆国、イギリスへ雑穀が直輸出▲ （根室）根室港西防波堤延長工事を着工(～昭和16年)◯ （稚内）稚内港埋立地に海軍燃油タンク造設■ （留萌）留萌港防砂堤・導流堤・東突堤・西突堤竣工▽ （紋別）紋別港北防波が完成、第１船入澗が完了、築港事務所が焼失※4 （広尾）内務省は広尾港を指定港に編入。広尾港築設で初のケーソン7基が完成※5
1931	昭和6	10.－　北海道庁、北千島海域におけるサケ・マス流網漁業を許可 10.－　中国の日貨排斥により、昆布・海参(いりこ)・貝柱・乾鯣(するめ)などの輸出が途絶	1.－　（釧路）釧路臨港鉄道(株)が知人埋立地で岸壁荷役を開始▲ 6.－　（広尾）広尾港浚渫のため、初めて浚渫船が回航※5 8.24（根室）リンドバーグが飛行機シリウス号で根室港に着水◆ 7.31（釧路・根室）根室・釧路両支庁管内および釧路市を地区として、根室町に北海道昆布輸出組合設立認可(10月1日、同組合事業開始) 9.18（函館）文部省の練習船日本丸が入港、西浜岸壁に繋留する◇ 9.20（釧路・網走）釧網線全通＊ 9.28（函館）港湾委員会で市営西浜埋立地の利用内訳が決定(中央卸売市場用5,852坪、税関用地1,000坪、商店倉庫地1万374坪)◇ 12.－（留萌）留萌鉄道(株)が南岸桟橋を建造▼ この年 （釧路）釧路川新水路(現新釧路川)完成。栗林商会、三上合資会社が合併し、三ツ輪運輸株式会社が設立▲ （根室）失業対策事業として海岸町船入澗を築設(～昭和27年)◯ （稚内）第五十九回帝国議会、稚内基点の利礼三角航路開始決議案を可決□ （留萌）留萌港北防波堤が完成▽ （紋別）紋別築港、埋立地等一切完成する※4、鉄筋コンクリート造りの北防波堤灯台が建設、点灯※2

1．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1932	昭和7		1.20 （函館）西浜町の市営埋立工事(総面積2万8,247坪)が完了し、事務所も閉鎖されることになり、工事関係者による竣工祝賀会が行われる◇ 3.－ （留萌）留萌港南防波堤に紅、北防波堤に白の灯台が完成、初点灯▼ 7.－ （小樽）小樽港第2期港湾修築工事並びに臨港鉄道工事が完成し竣工式を挙行● 9.－ （留萌）留萌～羽幌間に鉄道が開通▼ 10.1 （網走）石北線全通＊ 12.22（稚内）宗谷丸稚泊航路に就航■ 12.－ （留萌）留萌鉄道(株)が北岸壁の臨港線を設置 この年 （釧路）釧路川の浚渫工事が開始、西防波堤工事が着工※7 （根室）弥生町船入澗の波除堤207m延長工事を施工(～昭和8年)○ （留萌）留萌港内港南岸、北岸が護岸とともに完成。留萌鉄道(株)が南北岸壁に臨港鉄道と高架桟橋、石炭積込機(ローダー)を整備▽ （広尾）佐上北海道庁長官一行が来村し、広尾港修築工事と音調津漁港を視察。広尾港船入澗東堤建設が開始※6 （ほか）天塩港修築工事に着工
1933	昭和8	8.10　逓信省、札幌飛行場竣工式を挙行	3.－ （留萌）留萌港築港工事を終え、留萌港が完成▽ 8.－ （留萌）留萌港竣工記念祝賀会が開催▼ 10.－ （根室）大阪商船が根室～大連間航路を開設◆ 11.－ （小樽）輸出組合法に基づき、小樽に北海道豆類輸出組合設立 この年 （釧路）釧路川～新釧路川間の運河開削工事はじまる。釧路から青島～大連間に航路が開通▲ （稚内）町営船入澗(後に埋立、第二副港物揚場第二副港物揚場)完成(昭和3～8年)∴ （留萌）留萌築港事務所が閉鎖され、翌年から小樽築港事務所の所管となる▽ （広尾）三上鉄道大臣一行が汽船「東郷丸」で来港、広尾港、音調津漁港を視察※6
1934	昭和9		5.－ （網走）網走橋架け替え(管内初の永久橋)＊ 8.12 （根室）根室臨港鉄道が敷設し、港貨物駅が新設、海陸連絡の強化を図る◆ この年 （釧路）イワシ漁業の水揚量が最高を記録。釧路港より大連向けの輸出額が首位となる▲ （根室）根室港北防波堤延長工事を着工(～昭和19)○ （稚内）第六十五回帝国議会、小樽、稚内間定期命令航路建議案可決、稚内港基点利礼三角航路開始決定□、宗谷水産加工組合設立■ （留萌）留萌港維持浚渫を着工▽ （広尾）日勝連絡道路(黄金道路)全線開通★
1935	昭和10		4.1 （函館・小樽・根室）北海道庁命令航路の新契約が行われる。函館起点では、函館～小樽線(藤山海運)、函館～択捉線(金森商船)、函館～千島線(近海郵船)、函館～根室線(島谷汽船)、函館～鹿部線(渡島商船)がある◇ 5.－ （小樽）小樽港南防波堤工事が竣工● 8.－ （釧路）釧路開港三十五周年記念港まつりが開催▲ この年 （釧路）釧路から青エンドウなどの豆類が欧米へ直輸出▲ （稚内）稚内～鴛泊～香深三角航路開始∴ （留萌）留萌港内港護岸工事を着工▽ （紋別）紋別漁業協同組合が発足★
1936	昭和11		2.－ （留萌）留萌港が国際貿易港に指定▼ 2.－ （留萌）函館税関留萌支署開設▼ 4.－ （広尾）広尾漁業組合が協同組合と改編※5 5.－ （留萌）留萌港利用調査会が開催▼ 9.－ （釧路）45トン吊積疊機(タイタンクレーン)を稚内築港事務所より釧路築港事務所直営で所属替えをする(～12月)※7 10.10（網走）湧網東線(網走～常呂間)開通＊ 10.17（網走）湧網西線(中湧別～中佐呂間）開通＊ 11.15（根室）小型船用船入換澗築設工事を竣工○ 12.－ （小樽）小樽港に鉄道省経営の石炭積込の諸施設が完成● この年 （釧路）釧路工業港計画の構想が生まれる(工場誘致は不成功)▲。幣舞橋上流両岸の埋立による岸壁造成が竣工※7 （稚内）稚泊連絡船の接岸施設として、稚内港北防波堤(第一期570m・第二期884m∴)ドーム(北防波護岸庇424m∴)竣工、稚内～利尻・礼文島間に稚内利礼運輸(現在の東日本海フェリー)がフェリー航路を開設◎、宗谷港築港工事に着手、稚内築港工事第一期完成∴、宗谷炭礦汽船会社、天北炭田発掘に着手□

1．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1937	昭和12	4.1　全日本空輸送、札幌～東京間の定期航空路を開設 7.7　盧溝橋で日中両軍衝突(日中戦争)	1.2　（稚内）稚内測候所設置□ 4.－　（室蘭）日本製鐵、室蘭市輪西で鉄鋼一貫作業工場の建設工事に着工 8.1　（根室）根室港北防波堤に鉄製の灯柱が設置◆ この年 （小樽）小樽港第一埠頭が竣工● （釧路）北防波堤が完成(延長1,384m)※7。浜町地先の埋立工事が完成し、副港内に建設された嵯峨漁港に魚市場設置が許可、(株)釧路魚卸売市場の本場となる▲ （根室）海上出入貨物量が44万6,000トンに達する○ （稚内）稚斗連絡船鈴谷丸、樺太丸と交代◆ （留萌）日中戦争により港の石炭移出が増加▼
1938	昭和13		この年 （釧路）後の北埠頭が着工されるが、戦争のため工事中止となる▲。釧路埠頭倉庫(株)(昭和25年に釧路埠頭(株)と改称)創立、南浜町地先公有水面の埋立工事に着手※7 （根室）第2期北海道拓殖計画により、根室港の副港として花咲港修築事業が開始され、船入澗仮設工事に着工○ （稚内）稚内港第一副港工事に着手∴、鉄道船入澗完成∴
1939	昭和14	9.8　日本郵船(株)が近海郵船を合併する◇	2.1　（稚内）港駅を稚内駅、稚内駅を南稚内駅に改称◆ 5.26　（稚内）稚内港湯島丸函館港に転属◆ 5.－　（留萌）天塩炭礦鉄道(株)が創立▼ この年 （釧路）釧路石炭荷役株式会社(雄別炭の荷役会社)が設立▲ （根室）北洋のサケマス、2億2,000万尾の豊漁を記録◆、輸出額が1,588万1,000円に達し、開港以来最高額に○ （稚内）稚内第二副港着工（戦争激化のため昭和17年で中断、石炭積出用に（日曹鉱業施工後に稚内市が引き継ぐ）∴ （留萌）留萌港が留萌土木現業所の所管となる。 （網走）7～8月の豪雨で被害甚大となり、網走川網走橋下流右岸中間部のコンクリート護岸工事施工(昭和15年完成)、さらに網走川網走橋上流右岸の護岸および治水工事着工(昭和16年までに一部完成)＊
1940	昭和15		3.－　（室蘭）函館船渠、室蘭船渠を合併し室蘭工場とする('42年年7月、室蘭工場に１万トンドックが完成) この年 （釧路）釧路川浚渫工事、根室本線鉄橋より別保川落口までの浚渫を含む全体が完了。港湾貨物取扱量が222万9,000トンとなる※7。太平洋炭礦の港頭石炭ローダーが完成。太平洋炭礦(株)の年間出炭量が100万トンを突破する。タラ、スケトウタラの水揚量が最高を記録▲ （稚内）港湾取扱貨物量14万トンに達する∴
1941	昭和16	12.8　日本軍、マレー半島に上陸開始。ハワイ島真珠湾を空撃(日米開戦) 12.12 閣議、戦争の名称を大東亜戦争とすることを決定	9.11　（稚内）稚内運輸事務所、稚内鉄道管理局と改称◆ この年 （釧路）港湾運送業統制令に基づき、釧路港に雑貨荷役のため、釧路港運(株)、石炭荷役のため、釧路石炭運送(株)が設立(一港一社主義)▲ （根室）根室港西防波堤延長工事が完了○ （留萌）留萌港浚渫費の2分の1を港湾関係業者が負担し、浚渫が行われる▽ （紋別）紋別港北防波堤灯台が完成※4
1942	昭和17		12.16（稚内）天北石炭礦業会社創立、採炭本格的に開始◆ 12.24（函館）函館港湾運送(株)の創立総会が函館海務局で開催される(翌18年1月26日設立)◇ この年 （稚内）漁業無線局が設置■、稚内港浚渫工事に着手◆ （留萌）留萌港浚渫・導流堤補修工事を実施、天塩炭礦鉄道(株)が留萌～達布間の鉄道を開通▽
1943	昭和18	5.1　主要食糧の総合配給量の基準を定め、実施	4.15　（函館）函館船渠、王子製紙、栗林商船が株主となって東日本造船(株)が発足する(社長は富永能雄、本社は末広町金森ビル内、第1工場は函館、第2工場は室蘭、第3工場は釧路に設置される)◇ 5.1　（室蘭）大日本再生製紙('45年5月、国策パルプと合併)勇払工場、操業を開始 9.－　（小樽）小樽海運局が設置● 9.22　（函館）函館港湾荷役機械(株)の設立総会が開催される(社長平塚常次郎)◇ 11.1　（函館）函館海洋気象台の所管が運輸逓信省になる◇ 11.1　（函館）新設の運輸逓信省に小樽海運局を設置し、函館支局を設ける◇ 11.－　（小樽）小樽地方海難審判所を開設● 11.－　（網走）東日本造船網走工場で戦時標準型木造輸送船建造＊ この年 （根室）根室港北防波堤完成(泊地浚渫工事が完了)◆、第2期北海道拓殖事業による花咲港の修築事業が完成。根室港の副港として利用される○ （留萌）留萌港南防波堤補修工事を実施(～昭和21年)▽

1．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1944	昭和19		1.17 （函館）函館船渠(株)は、海軍省から第1次軍需指定工場を申し渡される◇ この年 （函館）山下汽船、北海商船、川崎汽船の3社が函館に進出し、支店等を開設する◇ （釧路）近海に潜水艦出没のため釧路港への入航船が減少。ニシンの水揚量が激減▲。南浜町地先公有水面の埋立工事（北埠頭）、エプロン工事を残して完了する※6 （根室）紅煙繋船(琴平町係船)護岸工事に着工(冬期に工事が実施)○ （留萌）留萌港に浚渫船大正丸が入る▼ （広尾）広尾港第1期修築工事、竣工。広尾港に軍艦徴用船が相次いで入港※6
1945	昭和20	7.6　東京からの集団帰農者第1陣(拓北農兵隊、201戸・953人)東京を出発(同月9日、札幌・空知・夕張の各郡に入地) 8.15　この日正午、戦争終結の詔書を放送、第2次世界大戦終結 12.29 農地調整法改正公布(第1次農地改革法)	5.29 （根室）根室港北防波堤灯台点灯◆ 6.－ （根室）紅煙繋船(琴平町係船)護岸工事が竣工○ 7.14 （函館）アメリカ海軍第38機動部隊第3任務軍の空母艦載機によって空襲を受ける(～15日)。北海道と本州を結ぶ鉄道貨物輸送(とくに本州の工業地帯向け北海道産石炭の輸送)の根幹となっていた青函連絡船網が攻撃目標とされ、連絡船12隻中、10隻が沈没・座礁炎上し、2隻が損傷、373人が死亡する。ほかに石炭を積んで函館から青森に航行中の機帆船272隻のうち、70隻が沈没し、79隻が損傷する◇ 7.14 （釧路）釧路が空襲される(～15日) ▲ 7.25 （函館）壊滅状態の国鉄青函連絡船運航を応援するため、急遽、船舶運営会所属の樺太丸が就航する。このほか損傷を受けていた貨物船第7青函丸と第8青函丸の2隻は、2週間ほどの修理を終えて再就航する◇ 8.9 （稚内）元稚泊連絡船亜庭丸、茂浦沖で空襲を受け沈没■ 8.16 （稚内）緊急樺太引揚船、相次いで稚内港入港◆ 8.－ （留萌）留萌沖で樺太引揚船3隻が撃沈▼ 9.27 （函館）マッカーサー・ラインが設定され、それまで函館の産業経済と市民生活を支えてきた北洋漁業(露領、母船式、北千島漁業)と樺太・南千島漁業の漁場は失われる◇ 10.－ （広尾）有限会社広尾造船所が設立※5 11.17 （函館）GHQより函館、博多ほか9港が帰還者受入港に、また、函館、舞鶴ほか6港が非日本人送出港に指定される◇ 11.27 （函館）政府米輸送船の第1船となる忠洋丸(機帆船、706俵積載)が函館港に入港する◇ 11.29 （稚内）稚泊連絡船宗谷丸、函館に回航■ この年 （釧路）副港地区に北埠頭へ通じる雄別線が入る※7、小型底曳網漁船が13隻操業を許可される。東北地方の底曳網漁船の入会と無許可船の操業が増える▲ （広尾）東北地方の底曳漁船が道東海域に入会、広尾港が基地となる※6
1946	昭和21	10.21 農地調整法改正・自作農創設特別措置法各公布(第2次農地改革法) 11.－　第1回北方漁業再開懇請北海道民大会を開催 12.27 閣議、第4四半期物資需給計画を決定。石炭・鉄鉱を中心とする傾斜生産方式開始 この年、内務省に北海道開発調査委員会を設け、開発行政の推進方策を検討(北海道開発法の制定、省内に開発局の設置など)	2.5 （函館）空襲で破壊されていた連絡船桟橋待合が復旧し、供用開始となる(ミカド食堂も営業)◇ 5.13 （函館）新造の連絡船第12青函丸が11日入港し、就航式が挙行される◇ 6.1 （函館）函館海運支局に統括されていた函館税関が、独立復活する◇ 7.1 （函館）昭和18年以来中止となっていた港まつりが再開される◇ 7.－ （函館）運輸省は青函連絡航路の輸送力回復対策として8隻の建造を決議してGHQの許可を得る(洞爺丸、摩周丸など)◇ 8.2 （函館）アメリカから食糧(トウモロコシ7,208トン)を積載した貨物船エノック・トレーン号が函館港に入港する◇ 10.15 （網走）網走町振興促進会結成(翌年、網走市振興促進会となる)＊ 12.5 （函館）米ソ協定による正式な引揚げが開始され、樺太の真岡(現ホルムスク)から引揚第1船の雲仙丸が入港し、西浜埠頭に着岸する(1,928人乗船)。第2船の白龍丸、第3船の新興丸7日、第4船の大隅丸が8日に入港する。これら4船による第1次引揚げで、総計5,702人が函館に上陸する◇ 12.19 （函館）舞鶴港に到着したシベリア引揚第1船から北海道関係者317人が壱岐丸に乗り継ぎ、この日函館港に入港する◇ この年 （釧路）北埠頭、専用鉄道の残工事が竣工※7、釧路港湾振興会が、船主、荷役業者、荷主、倉庫業者らの参加で発足▲ （紋別）港まつりが復活★、紋別漁業会が水産物共同加工場を改築し冷凍事業を開始※2 （広尾）町政施行により広尾町となる、日本水産(株)が広尾港に捕鯨基地を建設。また広尾港に製塩工場が建設される※6
1947	昭和22		2.11 （網走）網走市制施行＊ 4.22 （網走）網走冷蔵(株)が設立＊ 8.3 （網走）網走港改修期成会結成＊ 8.27 （網走）網走漁業会で市民に第1回のサケ配給＊ 8.27 （函館）北海道～東京航路に新造船ときつ丸が就航し、東京から函館に入港する(同日、釧路に向け出港)◇ 10.1 （留萌）市制施行で留萌市となる▽ 11.16 （函館）青函航路に就航する新造船洞爺丸が、函館港に入港する◇ 11.30 （網走）網走沿岸サケ大漁、市の漁獲高26万貫(約975トン)突破＊ この年 （函館）運輸省所管の函館港修築工事が施行される(昭和25年完成)◇ （釧路）釧路川河口右岸の災害復旧工事が始まる。北埠頭岸壁に石炭積込専用ベルトコンベヤーが設置※7 （根室）根室港のケーソンヤードを花咲港へ移設。花咲港西防波堤および浚渫工事を着工○ （留萌）留萌土木現業所・留萌築港工場事務所が新設。留萌港港内浚渫を着工。留萌港南防波堤災害復旧工事を着工▽ （紋別）戦後の港湾拡張計画により紋別港第2船入澗工事に着工※2、ケーソン斜路を造成※4

1．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1948	昭和23		4.24 （網走）北大理学部稲富教授ら、網走沖で学界初の流氷観測を実施＊ 7.－ （留萌）第1回留萌港利用経済会議開催▼ 8.7 （網走）第1回網走観光港まつり開催＊ 8.12 （網走）網走港修築工事起工式＊ 8.28 （函館）浦賀ドックで建造中の摩周丸(3,900トン)が竣工し、青森～函館間の連絡船として就航する◇ 8.－ （留萌）留萌・函館・大阪・博多を結ぶ裏日本定期航路が開設▼ 12.－ （網走）網走港からの種バレイショ海上輸送8万5,782俵(約5,147トン)＊ この年 （釧路）北埠頭の石炭積込設備の残工事が竣工。港則法および港域法が施行され、釧路港は港則法上の特定港に指定される※6 （根室）港湾調査規則により、根室港は乙種港湾に指定。花咲港は既設船入澗の拡張工事に着工○ （稚内）関税法に基づく港湾稚内港国際開港場に指定.∴ （留萌）築港工場が新たに大町に建設。留萌港南防波堤災害復旧工事を実施。小樽海上保安部留萌海上保安署が設置▽ （網走）港則法制定に基づく港域指定◎ （紋別）港則法制定に基づく港域指定◎、紋別港の第3期拡張工事が着工★、隣火により築港事務所が焼失※4 （広尾）広尾海運(株)海運業務を開始※6
1949	昭和24		4.8 （函館）青函連絡船桟橋の改修工事が着工される◇ 4.26 （根室）根室漁業会を解散し、根室漁業協同組合を設立◆ 5.28 （網走）網走漁業協同組合創立＊ 5.－ （釧路）雲仙丸が釧路～京浜間の定期航路を就航▲ 6.3 （網走）網走地方水産加工業協同組合設立＊ 7.21 （網走）西網走漁協協同組合が設立★ 7.－ （函館）函館桟橋第2岸壁の改修工事が竣工する(総工費2300万円)◇ 7.－ （釧路）鮮魚の統制が廃止され、三卸売市場が発足△ 8.23 （函館）戦後、函館から初めての海外直輸出となるベルギー向けインチ材が、この日、イギリス汽船ソマリー号に積み込まれる(北見地方産出のナラ材を市内の製材会社が製材し、アントワープ市の発注先へ向けたもの)◇ 12.22（釧路）釧路機船底曳網漁業協同組合が設立△ 12.25（網走）網走港補修工事事務所落成＊ この年 （小樽・室蘭）小樽港と室蘭港が外国民間貿易港に指定◎ （釧路）第二十三東海丸にはじめて魚群探知機が設置。北海道水産試験場釧路支場が開設。港湾荷役の組制度が廃止され、港湾労働者は荷役業者の直雇となる▲ （根室）花咲港西・南防波堤の復旧工事を行う(～昭和26年)○ （稚内）稚内市制施行■ （留萌）留萌港港内浚渫を実施。留萌港南防波堤・南岸埋立護岸災害復旧工事を実施。築港工場にケーソンヤード施設が完成▽ （紋別）紋別漁業用短波海岸局が開局★、紋別港修築事業所新築（再建）※4 （広尾）広尾航路標識事務所が開設。広尾港内で浚渫作業が開始※6、広尾町漁業協同組合が設立★
1950	昭和25	2.10 北海道開発法を閣議決定 5.1 北海道開発法公布(6月1日施行、総理府外局として国務大臣を長とする北海道開発庁設置) 5.2 漁港法公布 6.1 北海道開発庁発足 この年、港湾法公布	1.23 （網走）網走機船底引網漁業協同組合設立＊ 4.1 （室蘭）集排法に基づく日本製鉄の分割により、富士製鉄輪西製鉄所が新たに発足 5.31 （紋別）港湾法制定により地方港湾となる※4 8.1 （函館）青函鉄道管理局が設置され、開庁式が挙行される◇ 8.5 （網走）道水試網走支場・道水産研究所網走支所の開庁式挙行＊ 8.15 （函館）函館船渠(株)は小樽工場を閉鎖し、室蘭造船所を室蘭製作所と改め、陸上工事専門工場とする◇ 8.15 （釧路）市営製氷工場が操業を開始△ 8.－ （釧路）市営漁揚場が落成△ 9.16 （函館）道南海運(株)は函館～大畑間の定期航路を開設する(共栄丸が隔日運航)◇ 12.－ （釧路）北埠頭が完成▲ この年 （函館）函館港が植物防疫法に基づく輸入港に指定◎ （室蘭）出光・スタンダード・ゼネラル石油の各社、室蘭中卯埠頭に油槽所を建設し石油配分基地を形成 （釧路）戦後初の外国貿易船が釧路に入港。漁業基地化が進み全国よりサバ・サンマ漁船が集結△ （根室）冬季風浪20号災害により係留施設236m、埋立護岸48mが破壊される(昭和27年に復旧工事)。花咲港は荷揚場護岸の復旧工事(～昭和26年)、船揚場護岸、浚渫復旧工事(～昭和27年)を行う○ （稚内）港湾法に基づく地域港湾の指定◎(道内36港直轄港湾となる.∴) （留萌）留萌港南防波堤・南岸埋立護岸・北護岸災害復旧工事を実施▽

1．北海道の港町の歩み【北海道と北海道の港町の歩み】

西暦	年号	北海道の歩み	北海道の港町の歩み
1951	昭和26	7.1　北海道開発局を設置 10.25 日本航空(旧)、米国ノースウエスト航空への委託で札幌～東京間の民間航空を再開 この年、港湾整備5か年計画による直轄港湾改修工事が施行される◇	1.8　（網走）網走漁業生産組合設立＊ 1.19　（函館・小樽・室蘭）函館港と小樽港と室蘭港が重要港湾の指定◎ 3.3　（網走）網走市沿岸漁業生産組合設立＊ 4.－　（広尾）広尾港が港湾法に基づき、避難港の指定を受ける※6 6.9　（網走）網走海上警備救難署配属船「さふらん丸」入港＊ 6.22　（網走）網走海産商業協同組合設立＊ 6.29　（函館）函館漁港が第3種漁港に、志海苔漁港が第1種漁港に指定される◇ 7.1　（網走）網走土木現業所から網走開発建設部を分離＊ 8.30　（函館）函館船渠(株)は、定時株主総会で函館ドック(株)と社名変更することを決定する◇ 9.22　（釧路）釧路港が地方港湾より重要港湾に昇格△ 10.－　工業港を目指し苫小牧港建設工事に着工 12.11　苫小牧市工場設置奨励条例公布 12.17（稚内）稚内港修築事業所を設置∴ この年 （函館）函館港が検疫法に基づく検疫港の指定。函館港が港湾運送事業法の適用を受ける。函館港が出入国管理令に基づく出入国港の指定◎、函館ドック、政府の第7次前期計画造船による日本海汽船発注の「北海丸」を建造 （室蘭）室蘭港が検疫法に基づく検疫港の指定◎、富士鉄室蘭製鉄所(4月1日改称)、第1次設備合理化計画に着手('65年、予定通り大部分を完了。生産量が飛躍的に増大) （釧路）副港建設に着手。釧路川中流部の改修工事に着工▲、釧路市が旭化成顧問の宗像博士に工業開発を支える工業港の立案を依頼するとともに工場誘致の運動が盛んになる。 （根室）花咲港西防波堤の復旧工事を行う◯ （留萌）留萌開発建設部および留萌港修築事業所が設置。留萌港修築事業所が大町の工場構内に移転。留萌港南岸壁改良工事を実施。航路浚渫を実施。留萌港南防波堤・南岸埋立護岸・北護岸・北防波堤・導流堤災害復旧工事を実施。留萌港副港の一部を埋立▽、港湾運送事業法の適用を受ける◎ （紋別）紋別港第2船入澗南防波堤が完成※4、道立水産試験所紋別分場が設置★

【参考文献】
「北海道みなとまちの歴史 廣井勇が育んだ北の日本近代築港」著者：関口信一郎／発行：亜璃西社／発行日：令和３年(2021)2月12日
◇「函館市史 年表編」発行：函館市／発行日：平成19年（2007）2月28日
●「小樽市史 年表編」発行：小樽市／発行日：昭和28年（1953）12月10日
▲「釧路市史総合年表」発行：釧路市／発行日：昭和50年（1975）9月25日 ☆「釧路市史 年表」発行：釧路市役所／発行日：昭和32年（1957）9月15日 △「新修釧路市史 第四巻資料編」発行：釧路市／発行日：平成9年（1997）3月31日
◆「根室市史 年表」発行：根室市／発行日：昭和63年（1988）3月20日 ◯「根室港建設史」発行：釧路開発建設部／発行日：平成17年（2005）3月
∴「稚内市史」発行：稚内市／発行日：昭和43年（1968）12月20日 ■「稚内百年史」発行：稚内市百年史編さん委員会／発行日：昭和53年（1978）10月30日 □「稚内港の変遷」発行：稚内港湾建設事務所／発行日：昭和62年（1987）３月
▼「新留萌市史 資料編」発行：留萌市／発行日：平成15年（2003）3月31日 ▽「黎明の留萌港」発行：留萌港湾建設事務所／発行日：平成13年（2001）3月
＊「網走市史 年表」発行：網走市 企画総務部 総務課／発行日：平成20年（2008）３月 ※1「網走市史 上巻」発行：網走市役所／発行日：昭和33年（1958）5月
※2「新修紋別市史」発行：紋別市／発行日：平成19年（2007）3月31日 ※3「紋別百科事典」発行：紋別百科事典編纂委員会／発行日：平成17年（2005）3月31日 ※4「オホーツクの港もんべつ」発行：(株)オホーツク設計／発行日：平成3年（1991）2月
※5「新広尾町史 第三巻」発行：広尾町役場／発行日：昭和57年（1982）9月20日 ※6「十勝港建設史」発行：帯広開発建設部／発行日：平成18年（2006）３月
※7「釧路港建設史」発行：釧路港湾建設事務所／発行日：平成10年（1998）3月
※8「新北海道史 第九巻史料三」発行：北海道／発行日：昭和55年（1980）11月30日
★小樽市・函館市・室蘭市・釧路市・根室市・稚内市・留萌市・網走市・紋別市・広尾町の各HP
◎国土交通省北海道開発局HP（港湾・空港→北海道のみなと→各みなとの紹介）https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/kk/kou_kei/ud49g7000000kikg.html